

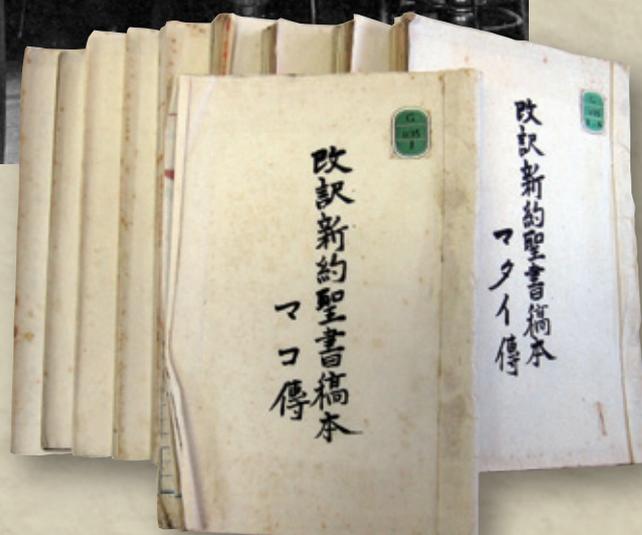
# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2013.12



「改訳聖書稿本と聖書改訳委員写真」

1910 (明治43) 年から聖書改訳事業が行なわれ、1916 (大正5) 年に完訳。のちに手直しをして翌1917 (大正6) 年10月に横浜の米国聖書会社から発行された。写真はその稿本と改訳委員である。左から川添万寿得、松山高吉、別所梅之助、J.C.デヴィソン、H.J.フォス、C.K.ハリントン、D.W.ラーネッド。この写真は委員長D.C.グリーンが亡くなり、ラーネッドが委員長になった大正2年以後のもの。別所梅之助寄贈



常青寮の思い出 川口和男 —2

資料センター所蔵資料紹介

来日メソヂスト宣教師達の本国宣教局への報告書・私的書簡 氣賀健生 —4

資料センター日誌抄 —6

受入れ資料 —7

利用案内 —8

# 常青寮の思い出

常青寮 緑友会 会長 川口 和男

青山学院大学に男子寮が存在していた事を御存知の方はどれぐらい、いらっしゃるのでしょうか。常青寮は、戦後の動乱が一段落した昭和31年に従来の寮とは別に青山の土地にミッションからの寄付により「教育寮」として開寮しました。

当初は大学1・2年生35名を新設の寮に、上級生は従来の寮に住むと云う変則な形でスタートをし昭和33年から全学年が新設の寮での生活をする事になりました。

その新設の寮の名前を付けるにあたっても諸説がありますが、当時の古坂学長の命名により「エバグリーン」を日本語訳した『常青寮』が有力です。

私もこれから伸び盛りの若人が羽ばたき、常にこの気持（若さの）を持ち続けるイメージのこの説が一番納得がいくと考えています。

その寮も時代の要請（学生総数の増加）に従い昭和36年に増設されました。

さらに時代が進むと戦後のベビーブームの世代が大学進学を目指す時となり、昭和43年鉄筋コンクリート造りの地下1階地上6階建てが増設をされ旧館の35名と舎室65（各室2名）の計165名を収容できる大規模な寮へと変身を遂げました。

私が入寮したのもこの時であり、新設間もないこの寮にこれからの大学生活の楽しみを予感させる事でも在りました。

しかし現実には甘くはありませんでした。入寮式後の深夜（23時前後）突然起こされランニングできる服装にて地下に新入生53名が集めさせられました。

「ストーム」と呼ばれる行事でした。寮を出発し表参道、神宮前、明治通り、渋谷駅を経て青山通り、寮に戻る約3.5Kmのコースでした。

受験勉強にあくせくとし、ろくに運動をしていなかった我々にとってはかなりハードでした。途中の景色などは目に入らず唯ひたすら駆けるのみでした。（一部例外有り。彼らは共通して運動部の出身者でし

た。）【ストームはこれが最初で最後でした。】

まだ苦難は続きました。新入生歓迎コンパでした。救急車の要請を予め手配をしコンパはスタートしました。幸い救急車のお世話になるものはいませんでした。幸い救急車のお世話になるものはいませんでした。私は途中で記憶を失い気がついたら自分の部屋で寝ていました。（先輩の何名の人手により担ぎこまれたらしいです。）

しかし日常は学生らしく規則正しい生活（勿論例外の人もいましたが）を送っていました。7時15分から7時30分の朝食、18時30分から18時50分の夕食、22時の門限及び23時の消灯まで各自勉学にクラブ活動・アドグル活動、アルバイトにいそんでいました。

その生活を支えていたのは、学校側は寮監、副寮監、寮母、賄いの女性スタッフ数名。

学生側は寮長、2名の副寮長でした。但し日常業務は当然の事ながら、学生が主体で運営を担っており、当番（2部屋の4名）制が引かれていました。当番の仕事は、朝食・夕食の準備のアナウス、朝食・夕食の準備完了のアナウス、風呂掃除、電話当番、正面玄関の扉の施錠など多岐に渡っていました。では日常生活を追ってみましょう。

朝食・夕食の配膳は下級生が担当、1テーブル（6名定員）の四隅の角には必ず2～3名の下級生が



昭和43年に建替えられた新寮の屋上にて

座り、ご飯及び吸い物の担当となりそのテーブルの世話をしました。

寮の運営はキリスト教に基づいて行っていますので、朝食の礼拝、夕食の礼拝・讃美歌唱和（寮母さんによるオルガン演奏付）後に食事を頂きました。週1回の宗教礼拝日は、説教に大学の諸先生がお見えになりこの日は普通の料理プラスαという豪華な料理（？）【約1～2品】が出たので寮生はこの日を楽しみにしていました。

外出時には玄関に学年毎に分かれた各自の名札置きが有りましたので、在寮時は黒・不在時は赤と使い分けをする事になっていました。これは当番が外から架かって来た電話（携帯電話のない時代なので）を取り次ぐ際の目安になっており、悲喜交々のドラマが目の前で展開されていました。

この電話2台は私も実家に送金依頼の電話を何回かした事もあるので、まさに寮生のライフラインの一端並びに女性からの『愛』のラインでも在りました。不在の時は、ホワイトボードに伝言メッセージを書置きする約束事になっておりました。

風呂は夕食後19時から入れる事になっており、順番は上級生が最初となっていましたので下級生は基本的に19時30分以降に入浴をしていました。風呂の入退室時は必ず「失礼します」と一声を掛けており、先輩が体を洗っていたら背中を流すなどまさに体育会系の世界でもありました。道端で遇った時でも必ず挨拶をするなどかなりバンカラの気風がまだ残っていた時代でもありました。

されど同室の先輩はかなり後輩に気を使っておりました。夜の宴に必要な物を手出しをして頂き、後輩は物資調達に走り廻りましたが、人生・家族・将来・日常の出来事（金銭問題も時には在り）など色々相談にも乗って頂ける先達でもありました。

しかし金銭面から見ると、地方からの学生を受け入れていた寮は、倍率約2.5倍（面接重視）を突破して来た学生で構成されていたので、やはり金銭的に父母の負担を軽くする為にアルバイトをほとんどの寮生は行わざるを得ませんでした。

1年の後期から条件付で認められて、私も小原会館での切花の清掃業務、赤坂『留園』の皿洗い、仕出し弁当詰め、日本銀行の金庫磨き、工事現場の足場の清掃、家庭教師など行い勉強・昼食代等の生活費を稼いでいました。



寮祭の一コマ（スクーンメーカー寮、シオン寮の女性を迎えて）

しかし苦しい事ばかりではなく、女子寮との合同バスハイク、ソフトボール大会、青山祭では法被を着て銀杏を売るなど楽しい事も数多くありました。

なかでも12月に行われる『クリスマス祝会』は寮生にとっては格別の日でも在りました。

この日は必ず女性同伴で夕食付のダンスパーティーが行われる日なのです。

事前に行われるオープンデートの日は、お目当ての女性をこの日ばかりは入寮及び入室が許可をされるので、女性を招待する為に部屋を綺麗に掃除して迎える人が多くいました。（当然例外の人もいましたので複雑な思いでした。）

『クリスマス祝会』当日はキャンパスの中の古いチャペルで特別礼拝を行った後に会場に向いました。ここでも悲喜交々のドラマが有り、当日同伴者のキャンセル等などで欠席をせざるを得なくなった人もいればこの日をきっかけに交際が始まり縁を結ばれた人も出ています。

寮にまつわる色々な話を書かさせて頂きましたが、『同じ釜の飯を食う』という寝食を共にした4年間の寮生活は、私の心の中で今も多くの先輩・同輩・後輩の人の繋がりや貴重な財産となっております。学園紛争など時代の波に翻弄された我々でしたが、お互いの人格を尊重し、多彩な個性と出会えた体験は忘れがたい出来事として人生の輝かしい1ページとなっております。

残念ながら、常青寮は平成19年に閉鎖されてしまいましたが、今の慌しい時代だからこそキリスト教育に根ざした『教育寮』の復活を我々OBは求めてやみません。最後に現在の私の気持ちはこの一言に尽きます。

I have a DREAM

## 来日メソヂスト宣教師達の本国宣教局への報告書・私的書簡

青山学院大学名誉教授 氣賀健生

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料のうち、今回は来日メソヂスト宣教師達の本国宣教局への報告書・私的書簡等を紹介いたします。これらの文書は北米ニュージャージー州マディソン市のドゥルー大学構内のMethodist Archivesに於て、1991年に筆者が蒐集したものです。この資料館はNew Yorkのメソヂスト本部の直轄で、海外伝道に関する史料は殆どここに集められています。日本のメソヂスト教会黎明期の明治年間（1873年宣教開始）から日本基督教団の成立（1941年）に至る大正・昭和年間にかけて、日本各地に於て伝道に教育に盡した宣教師達の生の声を聴くことが出来る大変貴重な史料です。但し宣教師もひとりの人間ですから、いろいろ個人的事情もあり、彼らのプライバシー保護の上からも公表できないものもあり、すべての文書はドゥルー大学資料館によって厳重に管理され、研究以外の目的に公開してはならない旨のスタンプが一葉ごとに刻印されています。

まずはJulius Soperの報告書から。Soperは最初の宣教師団のひとりとして1873年来日。日本滞在の最初の10年間に青山学院創設期の重要人物津田仙夫妻とその子供達をはじめ約400人に洗礼を授け、更に津田仙と協力して青山学院前身の耕教学舎＝東京英学校を創設し、また銀座教会、九段教会等の設立にも重要な役割を果たしました。1901～08年には青山学院神学部長をつとめています。日本滞在38年間にメソヂスト宣教本部に送った報告書のうち31通が当資料センターにあります。その約2／3は手書きですが大変読み易い筆蹟で書かれています。報告書の大部分は宣教と教育に関するもので、例えば青山学院の学生の間で素晴らしい祈りの運動が盛んであり「何人もの学生が回心して信仰を新たにしました。彼らの上に神がなし給うたことを聴くのは輝かしい“古き良き時代”を思わせる。長い間このような希望に満ちた光景を見たことがない。このリヴァイヴァルが日本中に広まることを

願う」と述べています（1900.2.6付）。またプレスビテリアン（日本基督教会）との伝道競争の様子や、公立学校に青山学院卒業生の英語教師を送りこむ運動、メソヂストミッション3派（カナダ・アメリカ北部・南部）の神学教育の合同の状況、北海道を駆けめぐっての伝道の様子など、こまごまと書かれています。1899年10月5日付報告書では、文部省訓令12号事件にふれ、「文部省が宗教教育を認めないと言うなら、我々としては、何時でもアカデミー（中学校）を閉鎖し、カレジ、神学校ともに、この度の学校教育規制にわずらわされずに、私立学校（各種学校）として生きて行くだけのこと」と、毅然としています。そして1901年5月10日付の報告では「約2年前に文部省の訓令によって強制されて我々が放棄した特権が回復された」と述べ「卒業生が公立の上級学校に行ける、その上、公立学校と同じく我が学校に於ても徴兵延期の特権が28歳まで認められる」として「これらはもうひとつの勝利である」と手放して喜んでいきます（Soperについては『青山学報』No.169.1991年参照）。

Soper以外にもこの文部省訓令12号事件については多くの宣教師がその報告書に言及しています。その例を二、三挙げておきましょう。

The graduates of our academy, with our Certificate, are <sup>now</sup> entitled to admission into the higher Government Schools, just as the graduates from Government Middle Schools. And, in addition to this, they have relieved <sup>our academy</sup> from the "Conscription" laws of the land like all Government Schools — <sup>(making students free)</sup> i.e. free from this law until they are 28 years of age. This is again — a triumph! So pay to stand by our principles!

ソーパーの手紙

まずDavid Spencer (1883～1928滞日。現在の銀座教文館の土地を取得してキリスト教出版事業に行蹟を残した)の本国宣教局への報告によれば「本当の問題は個々のミッションや教会ではなく、すべてのキリスト教機関である。訓令はすべての宗教に及ぶという立前だが、文部省高官から聞いたところによれば、意識的にキリスト教の制限を目的としている。然もそれは仏教側からの示唆なのだ。憲法で宗教的自由をうたっている政府が、実際は制限や指令を通してキリスト教からそれを取上げようとしている」ということでした。

次にBenjamin ChappellのCranston監督にあてた書簡(1899.11.13付)をあげておきましょう。彼は「もし来年の4月に学生募集をするなら、政府の許可なしのまま行方より方法はない」と言い、書簡の末尾に「アメリカ公使館から10月4日付で秘密の手紙がとどいている筈だが、宗教教育はすべて不可というのは翻訳の誤りなどではなく、本当のことで、公使館と文部省との間で何かゴタゴタがあったらしい」と記しています。Chappellは1889年来日、滞日中の全期間を青山学院で奉仕し、1918年に公式には引退しましたが、学院内に居住し、学生達との生活を楽しんでいました。1925年4月24日心臓発作で急逝し、遺霊は青山霊園に眠っています。彼の手書き書簡は恐ろしく癖のある書体で読みにくいこと夥しいものですが、訓令12号事件について、もうひとつ彼の書簡を挙げておきましょう。「一年以上前に、多くのキリスト教学校は宗教教育を規制されました。然し宗教教育をあきらめるよりは、公認を取消されてもこれを守ることをえらびました。このために卒業生は公立の上級学校へ行けないし、大学も不可ということで、生徒数も減りました。然る所、文部省はこの度特権回復を認め公認の学校に戻ったのです。加うるに宗教的自由を認めたのです。2年前とは大違いです。これで入学者は既に2倍になりました。戦いが既に終わったことは明らかで、150人の学生はまもなく500人になるでしょう。」これはメソヂスト宣教局総主事Carroll宛1901年5月9日付です。

訓令12号事件関係は一応この位にして、次にRobert Samuel Maclayの書簡を見ましょう。彼は人も知る青山学院初代総理(院長)として、その建学の基礎を築いた人物です(『青山学報』127号参照)。1848年フーチョウ(福州)に赴き、爾来4半世紀に及

ぶ中国伝道の艱難辛苦の歳月の後、1873年北米メソヂスト教会日本派遣宣教師第1号として横浜の土を踏みます。横浜での10年間の伝道の末1883年に東京青山に



マクレイ

東京英和学校を開き、その初代総理(院長)となりました。彼の書簡は1885～88年間の10通が資料センターに保管されています。その各書簡には、彼の接した一般の日本人の教養の質の高さと、その外来文化に対する関心—彼の言葉によれば“異常な程の関心”—について、繰返し述べられています。彼はこれを神の与え給うた摂理と理解し、伝道と教育に励んだのでした。「日本に送る宣教師は、必ず高等教育を受け、教養と学識とを兼ね備えた者でなければならない」と、これは彼が機会あるごとに宣教局に書き送った言葉でした。Maclayこそは真に日本を理解し、日本人を愛した宣教師であったといえるでしょう。日本の宣教は日本人の伝道者に委ねるべきである、というのが彼の確信でありました。1888年ニューヨークのメソヂスト監督教会総会に於て日本におけるメソヂスト教会の合同・独立を提案したのはMaclayでした。これが後に1907年日本メソヂスト教会成立の基盤となったのでした。

マクレイの息子Georgeは、父のあとをついで日本伝道を志していましたが、不幸にも若くして夭逝。Georgeの親友Gideon Frank Draperが身がわりとして日本伝道を志し、1880年3月来日。約60年におよぶ期間に横浜・函館・弘前・名古屋・東京などで伝道し、晩年は青山学院で教えました。彼は各地の伝道に常にオルガンを携えていて、1889年3月22日付宣教局宛の書簡には「早速オルガンを送ってくれて有難う。無事に着きました」とあります。このオルガンは現在も資料センターにあり、即演奏可能です。上記書簡で彼は初期青山学院の様子を詳細に報告し、また北海道伝道時にはその開拓状況を詳しく報告しています。

以上宣教師数人の報告書です。他の人物のものは機会を改めて紹介しましょう。

2013年度前期

日誌 (抄録)



4月

閲覧 (青山)

- ・ 本学教員、美以美小学校関係資料、日曜学校資料、『護教』、英文婦人年会記録ほか
- ・ 元職員、女子専門学校関係資料ほか (4回)
- ・ 大学名誉教授、『米山梅吉翁物語』、『無我の人 米山梅吉』ほか (3回)
- ・ 一般の方、『しなやかに夢を生きる』、『青山女学院史』

閲覧 (相模原)

- ・ 一般の方、羽坂理事長関係資料

レファレンス

- ・ 元職員より、校友会の「さゆり会」が「青山さゆり会」になったのはいつか。
- ・ 高等部教員より、昭和4年から旧高等部北校舎にあった祈祷室の写真の有無 ほか計12件

来室 (青山)

- ・ 本学教員 2人

業務

- ・ 相模原ウェスレーチャペルの本多庸一先生召天100周年記念展示撤去
- ・ 東奥義塾へ本多庸一のパネル貸与送付
- ・ 短大教員にDVD「地に播かれた三粒の種」貸出
- ・ 業者へ本多庸一先生の書3点、修復依頼

5月

閲覧 (青山)

- ・ 元職員、『青山女学院史』
- ・ 大学名誉教授、『青山学院の歴史を支えた人々』、『看雲録』
- ・ 大学教員、『護教』
- ・ 他大学教員、『国士本多庸一先生を憶ふ』
- ・ 一般の方、津田仙関係資料 多数

閲覧 (相模原)

- ・ 一般の方、『鉞子 世界を魅了した「武士の娘」の生涯』

レファレンス

- ・ 他部署より、幸田露伴の青山学院での在籍確認
- ・ 一般の方より、間島弟彦と白瀧幾之助が同じ敷地に住んでいた証拠の有無 ほか計14件

来室 (青山)

- ・ 元教員 2人

業務

- ・ 資料センター運営委員会委員選出依頼
- ・ 創立140周年記念事業打合せ、事務長出席
- ・ 5/23資料センター展示検討小委員会、事務長出席
- ・ 5/31 2013年度第1回資料センター運営委員会

6月

閲覧 (青山)

- ・ 本学教員、『狐の裁判』
- ・ 大学名誉教授、本多庸一著『一般の教育に関する文部省訓令第12号に対する運動顛末概略及意見』ほか
- ・ 一般の方、『天道遡源』ほか
- ・ 比屋根安定 (元教員) の孫 2人・校友・友人、比屋根安定

の資料

- ・ 本学職員、『米国メソジスト監督教会等の明治初年における東京の伝道』
- ・ 本学学生、『青山学院100年』ほか
- ・ 一般の方、ベリー・ホール、大学礼拝堂 (中学部講堂) の絵葉書、写真等
- ・ 本学職員、『青山学院五十年史』、『同資料編』

閲覧 (相模原)

- ・ 本学学生、ボクシング部創部の頃の資料
- ・ 一般の方、津田仙関係資料全般

レファレンス

- ・ ボクシング部の学生より、パンフレット作成のため創部の経緯等を知りたい
- ・ 大学学生より、1960年6月17日の安保闘争の学生への公示があったか ほか計11件

来室 (青山)

- ・ 大学名誉教授 2人

来室 (相模原)

- ・ 大学名誉教授 1人

業務

- ・ 初等部へ、隠れキリシタン関係資料を授業のため貸出し
- ・ 業者より、宣教師の手紙 (大正から昭和にかけて) のマイクロフィルム購入
- ・ 6/20資料センター展示検討小委員会、事務長出席
- ・ 弘前学院大学へ本多庸一パネル貸与送付

7月

閲覧 (青山)

- ・ 本学学生、『図説渋谷区史: 区制70周年記念』
- ・ 一般の方、『青山学院大学五十年史』、『青山学院100年』
- ・ 本学学生、教育学科会報に記事掲載のため、正門、構内配置図

- ・ 大学名誉教授、『在りし日』

- ・ 本学教員、『青山学報』

- ・ 一般の方、杉本好太郎の資料調査のため、『日本キリスト教歴史大事典』

- ・ 本学教員、『Biblia Latina』

- ・ 他大学教員、女学院運動会写真、美以教会年会記録

- ・ 本学教員、メソジスト伝道関係資料閲覧・コピー

- ・ 大学名誉教授、『一柳満喜子文集 教育のこころみ』

- ・ 他大学学生、『婚姻の事並びに離縁の弊害を論ず』、『天主教正謬』

- ・ 元職員、『東洋英和女学院100年史』

閲覧 (相模原)

- ・ 他大学教員、岩村透関係資料

- ・ 本学職員、『第一回相模原祭』パンフレット

- ・ 校友、『青山学院大学新聞』マイクロフィルム

レファレンス

- ・ 中等部教員より、弘前には青山学院と関連のある史跡などがあるか ほか計7件

来室 (青山)

- ・ 大学名誉教授 2人

- ・ 本学教員 1人

- ・ 一般の方 1人

業務

- ・ 大学教員・総合企画部・事務長、総合研究所PJの打合せ

- ・ 大学教員・他部署職員・カメラマン、『青山学報』掲載用

## 『Biblia Latina』の写真撮影

- ・140周年記念事業打ち合わせ、事務長出席
- ・7/16『Archives Letter』8号 1,500部納品
- ・7/24青山キャンパス、ウェスレーホール分室引越し準備
- ・7/26青山キャンパス分室をウェスレーホールから間島記念館2階へ引っ越し
- ・7/27青山キャンパス、ウェスレーホール分室後片付け

## 8月

## 閲覧 (青山)

- ・大学名誉教授、『在りし日』

## レファレンス

- ・他部署より、東京オリンピックで通訳をした学生の名前を知りたい ほか計2件

## 業務

- ・8/1 資料センター展示検討小委員会、事務長出席
- ・8/2 相模原事務局と青山への引越しの打ち合わせ
- ・8/12～青山キャンパスへの引越し準備
- ・青山学院創立140年、150年に向けての打ち合わせ、事務長出席
- ・8/15青山キャンパスへ引越しパッキング
- ・8/16青山キャンパスへ引越しパッキング続きと青山へ荷物移動
- ・8/17青山キャンパスへ引越しパッキング続きと青山へ荷物移動
- ・8/19青山キャンパス事務室の引越し後の整理開始

## 9月

## 閲覧

- ・他大学学生、明治期基督教関係図書閲覧

- ・他大学教員、戦前 (M19中学校令以降) の英語教育の調査のため青山学院の調査
- ・元教員、『初等部だより』
- ・本学教員、『津田仙評伝』
- ・大学名誉教授、『青山学報』、保坂栄一個人資料ファイル
- ・本学学生、『親子面接のすすめ方』
- ・本学職員、メソジスト監督教会婦人年会記録 (英文)
- ・本学教員、『来日メソジスト宣教師事典』

## レファレンス

- ・一般の方より、昭和18 (1943) 年の箱根駅伝に青山学院大学が初めて出場したが、その際の資料の有無
- ・他部署より、アドバイザーグループの起源や歴史について ほか計10件

## 来室

- ・大学名誉教授1人
- ・元職員2人
- ・校友1人
- ・他大学教員1人

## 業務

- ・業者、本多庸一の書の修復3点納品。新たに3点修復依頼
- ・明治英語関係図書の影印本発行の依頼あり
- ・青山キャンパス防災訓練、稲村出席
- ・寄贈資料受け取りのため井筒家訪問
- ・間島記念館1階の「愛の像」掃除

## 指定寄付

資料センターの活動費として、1965年青山学院大学経済学部商学科K組卒業生有志の方たちより20,000円

## 2013年度前期受入れ 資料

(学内部署からの資料は除く)

## 寄贈 (抜粋)

- 青山学院校友会初等部会様より、『青山学院初等部校友会名簿 1997』創立60周年記念
- 遠藤真名美 (校友・職員) 様より、高等部修学旅行のしおり (山陽山陰の旅) (次頁写真①) 31期生 ほか
- 青山学院女子短期大学同窓会様より、青山学院女子短期大学 同窓会会報1号～38春号 2013年3月 PDFファイル CD
- 堀峰生 (資料利用者) 様より、『ケースブック日本の企業家—近代産業発展の立役者たち』宇田川勝編 2013年3月
- 京田三恵 (校友の子女) 様より、『参考資料 最近世界地理』上巻1917年、下巻1919年 井原儀著 各1 (青山女学院の教科書)
- 加藤悦子 (校友・元職員) 様より、「故木田献一告別式次第」2013年4月
- 樽松かほる様より、『清水安三・郁子研究』第5号 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編 2013年3月
- 滝澤民夫様より、「北村透谷と増野悦興のキリスト教認識—内部生命論と信仰の実験— (1)」滝澤民夫著 同志社大学

- 同志社談叢33号(抜粋) 2013年3月 ほか
- 中里美紗子 (校友) 様より、青山学院女子短期大学卒業アルバム (1952年3月) の複製CD (次頁写真②)
- 日本基督教団豊橋東田教会より、『豊橋東田教会100周年記念誌』豊橋東田教会100年誌編集委員会編 2012年12月
- 北室南苑様より、「カスチョール」第30号 2012年12月 (校友・勝田銀次郎関連の記事掲載あり)
- 清水陽之助 (校友) 様より、『回想記』清水陽之助著 2012年
- 吉岡勝見 (校友) 様より、「グリーンハーモニー OBニュース」No.47 2013年4月
- 伊藤信夫 (校友の父) 様より、青山学院大学硬式野球部試合春季・夏季オープン戦・東都大学野球春季・秋季リーグ戦状況・結果 2006～2013年 合計10点
- 若林平太 (資料利用者) 様より、「福祉を創った女性たち 母たちの母 城ノブ①～⑦」若林平太著 福祉新聞第2625～2631号 2013年6月10日～7月22日
- 辻雄史様より、『勝田銀次郎と陽明丸事件』辻雄史著 2013年4月 (NPO法人神戸外国人居留地研究会年報「居留地の窓から」第8号抜刷)
- 東奥義塾様より、「本多庸一の生涯をたどる 東義高で死去100年展 写真や書簡を展示」2013年4月 陸奥新報コピー ほか
- 大場弘一 (校友) 様より、青山学院中等部校舎落成記念 絵葉書3枚1組 昭和24年4月 (次頁写真③)
- NHK札幌放送局様より、NHK「MODERN TIMES」DVD (校

友・田上義也関係資料)

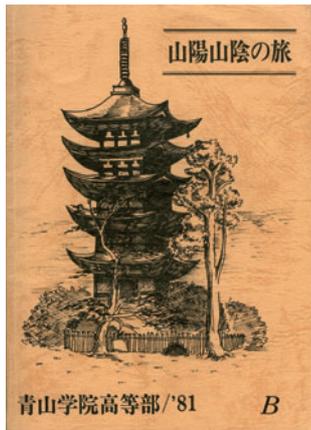
- 岡部一興（元大学非常勤講師）様より、『山本秀煌とその時代 —伝道者から教会史家へ』岡部一興著 2012年11月
- 金山屯（校友）様より、『赤い靴はいたた女の子 愛と魂物語【陸奥編】』金山屯著 2013年8月
- 金井和夫（阿部義宗院長の孫）様より、『讚美歌』昭和9年8月 教文館（阿部義宗院長愛用）（写真④）
- 木村光彦（大学国際政治経済学部教授）様より、『白河ハリ

ストス正教会史』教会史編集委員会編 2006年10月

- 青山学院大学電気電子工学科同窓会事務局様より、『青山学院大学電気電子工学科同窓会報』第17号
- 他大学年史・紀要類多数

## 購入

- 『前期刊行古本目録』三橋猛雄編 明治堂書店 昭和52年1月（写真⑤）



写真①高等部修学旅行のしおり



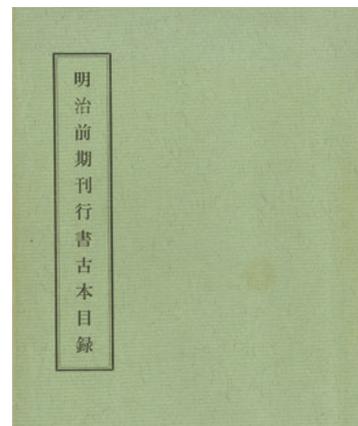
写真②女子短期大学運動会



写真③中等部校舎落成記念絵葉書



写真④阿部義宗院長愛用讚美歌



写真⑤明治前期刊行書目録

## 青山学院資料センター利用案内

資料センターは、青山キャンパス再開発計画に伴い、2005年11月17日に間島記念館から二箇所に臨時移転していましたが、2013年8月に間島記念館2階に移転統合いたしました。閲覧希望の場合は、なるべく事前にご連絡ください。

- ★資料の閲覧曜日、時間  
火曜日 9時30分～17時  
土曜日 9時30分～13時  
(昼休み11時30分～12時30分)

- ★休室日  
日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末年始（2013年12月25日～2014年1月5日）・その他青山学院が定める休日

- ★お問い合わせ・連絡先  
TEL：03-3409-6742 FAX：03-3409-8134  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

- ★URL <http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

### 資料センター運営委員

(任期2013年4月1日～2015年3月31日)

院長（職務上）	山北 宣久
常務理事1名（職務上）	杉村 佐壽
学院宗教部長（職務上）	嶋田 順好
大学図書館長（職務上）	三村 優美子
大学 教員1名	清水 信行

女子短期大学	教員1名	谷本 信也
高中部（高）	教員1名	佐藤 隆一
高中部（中）	教員1名	小田井 孝
初等部	教員1名	窪田 靖
幼稚園	教員1名	川島 祥子
総局長（職務上）		伊豆 一男
資料センター事務長（職務上）		傳農 和子

### 資料センタースタッフ人数

専任 2人  
パートタイム 2人  
派遣 2人

## Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 9号

2013年12月18日  
青山学院資料センター編・発行

